

式辞（実録）

磯松中学校にはグラウンドの周りをめぐる桜街道というランニングコースがあります。その桜街道の桜が、満開を迎えています。

本日、磯松中学校に入学する二〇一名の新一年生の皆さん、入学おめでとうございます。在校生、教職員一同、心から歓迎します。

そして、保護者・地域の皆様とともに、第四十二回東広島市立磯松中学校入学式を行うことができますこと、心よりうれしく思います。

本校は、創立以来、六二八九名の卒業生を送り出してきた、歴史ある学校です。

生徒玄関の前には、本校の校訓、「思考・実践・敬愛」刻まれた石碑が置かれ、長きにわたって学校へ通う生徒たちを見守ってくれています。

一つめの「思考」、自分の頭で考えることです。人生は「選択」の繰り返しです。二つの道を同時に選ぶこと

はできません。どちらの道が正しいのか、自分を成長させる道なのか、よく考えることです。

この考えるための基礎を学ぶのが学校生活です。まずは毎日の授業を大切にしてください。そして、本をたくさん読んでください。さらに、体育大会、文化祭、修学旅行などの学校行事を通じて、仲間と力を合わせて何かを作り上げることが学んでください。

二つめの「実践」、あたり前のことをきちんとやりきることです。本校には「ABCDの心得」というものがあります。「A あたり前のことを B ばかにせず C ちゃんとやるのが D できる人」です。「あたり前」とは何でしょうか。

たとえば、あいさつをすることです。「あたり前」のようになっていますか。自分から、相手の顔を見て、元気に、大きな声で「おはようございます。」と言っていますか。地域で、中学生が元気に挨拶をする、それだけで磯松の地域全体の活力が高まります。まずはここから、実践してください。

三つめの「敬愛」、ちがいをみとめ合い、たがいを思いやり、力を合わせることです。みなさんは、お城の石垣

をみたことがあると思います。大きな石、小さな石、様々な形の石が積み上げられています。お互いがお互いの重さで押し合い、お互いがお互いの異なる形で支え合うことで、地震に耐え、何百年もの時を超えるのです。違いがあることが強さなのです。

人間も同じです。同じ人など一人もいないのです。違いがあるから、話し合う意味が生まれ、人はよりよい考えにたどりつけます。これから皆さんは新しい学級に分かれます。まずは、いしがきのように支え合える学級を作ってください。

磯松中学校の校訓、「思考・実践・敬愛」は、みなさんがこれから向かう、十年後、二十年後にあっても変わることはない、人生をきりひらく教えです。この校訓を胸に刻んで、磯松中学校の一員として誇りをもって、中学校生活を始めましょう。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。いよいよ義務教育の最後の三年間が始まります。生徒が社会で自立して活躍できるよう、私ども教職員一同、生徒一人一人に対し、時にやさしく、時に厳しく、しかし深い愛情をもって、教育活動を進めてまいります。

保護者・地域・学校が力をあわせることで義務教育
はその輝きを増します。

本校教育の推進に対しまして、これからも変わらぬ
ご理解・ご支援をお願い致しまして、式辞といたします。

令和七年四月九日

東広島市立磯松中学校

校長 立田 晃